

## 自宅から生駒山、樟を眺める

大阪に転居して1年近くになる。名古屋星ヶ丘 UR から、瀬戸「海上の森」の方に昇る朝日を眺めるのが楽しみだった。「定点観測」と称して、寒い早朝に写真を撮ったものだ。大阪東三国 UR からの風景は味気ないものだが、朝夕の朝日と夕日は楽しめる。

写真は11日21日の朝6時24分に自宅ベランダから撮った朝焼けの空。まもなく生駒山あたりから太陽が昇ってくる。日の出の数分前がいい。日の出の場所は刻々と変わり、わが家にとって、今ごろが最高である。名古屋時代を思い起こして、「定点観測」をささやかな楽しみとしたい。



生駒山は何とかビルに邪魔されずに眺めることができる。自宅から山を眺められるのは嬉しいことだ。いちど生駒山に「いこまいか」と。生駒山から自宅が見えるだろうか。この写真ではっきりしないが、生駒山の左手前に高い木が見える。JR 京都線の向こう側にある須賀神社跡の樟である。

緑少ない住環境のなかで、貴重な樟の大木である。久しぶりに、樟の近くまで行った。台風の影響を心配していたが、この樟も枝が折れたようだが、貫禄ある姿だ。



「昭和56年6月1日指定 天然記念物之樟」という石碑の横に、案内があったので書き写した。

### くすのき 樟の由来

建武の頃 後醍醐天皇に逆った足利尊氏は天皇を援ける河内国の豪族楠正成と千早・赤坂両城で戦った。其の後正成は兵庫の湊川で戦死。

正成の子正行が、兵三百余騎を率いて、足利尊氏の大軍三万余騎と河内國四条畷において戦ったが衆寡敵せず将兵の殆どが戦死したが、一部の兵がこの地に逃れて主君を忍び、樟の苗木を植え、その苗木をが成長したもので、樹齢約六百年である。



(2018年11月23日)